

1 ベクトル $\mathbf{a} = i + 2j + 3k$ と $\mathbf{b} = (c-2)i - 2j + (1-c)k$ に対して、次の問に答えなさい。【各3点】

(1) \mathbf{a} と平行な単位ベクトルをすべて答えなさい。ただし、「 \mathbf{a} と平行なベクトル」とは、 \mathbf{a} のスカラー倍として表されるベクトルのことである。

$$|\mathbf{a}| = \sqrt{1^2 + 2^2 + 3^2} = \sqrt{14} \text{ より、求めるベクトルは、}$$

$$\frac{1}{\sqrt{14}}(i + 2j + 3k) \text{ と } -\frac{1}{\sqrt{14}}(i + 2j + 3k)$$

である。

【1点】一方だけの場合。

(2) $c = 1$ のとき、 \mathbf{a} と \mathbf{b} のなす角 θ は鋭角か、直角か、鈍角か判定しなさい。

$c = 1$ のとき、 $\mathbf{b} = -i - 2j$ である。このとき

$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 1 \times (-1) + 2 \times (-2) + 3 \times 0 = -5$$

である。 $\cos \theta = \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}}{|\mathbf{a}| |\mathbf{b}|} < 0$ より、 θ は鈍角である。

(3) \mathbf{a} と \mathbf{b} のなす角が直角となるような c の値を求めなさい。

\mathbf{a} と \mathbf{b} のなす角が直角となるのは、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$ のときに限る。

$$\begin{aligned} \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} &= 1 \times (c-2) + 2 \times (-2) + 3 \times (1-c) \\ &= c - 2 - 4 + 3 - 3c = -3 - 2c. \end{aligned}$$

よって、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$ となるのは、 $c = -\frac{3}{2}$ のときである。

【1点】途中まで計算が正しく、条件 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$ を使っている。

(4) $c = 3$ のとき、 \mathbf{a} と \mathbf{b} の外積 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ を求めなさい。

$c = 3$ のとき、 $\mathbf{b} = i - 2j - 2k$ である。このとき

$$\begin{aligned} \mathbf{a} \times \mathbf{b} &= \begin{vmatrix} i & j & k \\ 1 & 2 & 3 \\ 1 & -2 & -2 \end{vmatrix} \\ &= (2 \times (-2) - 3 \times (-2))i \\ &\quad + (3 \times 1 - 1 \times (-2))j \\ &\quad + (1 \times (-2) - 1 \times 2)k = \underline{2i + 5j - 4k}. \end{aligned}$$

【1点】定義が正しく、途中まで計算が正しい。

2 ベクトル関数 $\mathbf{A}(t) = t\mathbf{i} - \mathbf{j} + \frac{1}{t}\mathbf{k}$ の $t = 1$ から $t = 2$ までの定積分を求めなさい。【3点】

$$\begin{aligned} &\int_1^2 \left(t\mathbf{i} - \mathbf{j} + \frac{1}{t}\mathbf{k} \right) dt \\ &= \left(\int_1^2 t dt \right) \mathbf{i} - \left(\int_1^2 dt \right) \mathbf{j} + \left(\int_1^2 \frac{1}{t} dt \right) \mathbf{k} \\ &= \left[\frac{t^2}{2} \right]_1^2 \mathbf{i} - [t]_1^2 \mathbf{j} + [\log t]_1^2 \mathbf{k} \\ &= \frac{4-1}{2} \mathbf{i} - (2-1) \mathbf{j} + \log 2 \mathbf{k} \\ &= \underline{\frac{3}{2}\mathbf{i} - \mathbf{j} + \log 2 \mathbf{k}}. \end{aligned}$$

3 次の (1)～(10) の空欄に当てはまる最も適切なものを

(ア) スカラー (イ) スカラー場 (ウ) 0 (スカラー)
(エ) ベクトル (オ) ベクトル場 (カ) 0 (零ベクトル)
(キ) 一般には定義不可能

の中から選びなさい。ただし、ここで「ベクトル (場)」という場合は、3次元空間における空間ベクトル (場) を指すものとする。【各1点】

(1) 2つのベクトルの内積は、(ア) である。

(2) 2つのベクトルの外積は、(エ) である。

(3) スカラー場の勾配は、(オ) である。

(4) スカラー場の発散は、(キ) である。

(5) スカラー場の回転は、(キ) である。

(6) ベクトル場の勾配は、(キ) である。

(7) ベクトル場の発散は、(イ) である。

(8) ベクトル場の回転は、(オ) である。

(9) 2つのベクトル場の内積は、(イ) である。

(10) スカラー場の勾配の回転は、(カ) である。

4 スカラー場

$$\varphi(x, y, z) = x^2y - xz + \log y$$

とベクトル場

$$\mathbf{A}(x, y, z) = (2xy^2 - yz)\mathbf{i} + (x^2y + 1)\mathbf{j} - xy\mathbf{k}$$

に対し、次の問に答えなさい。【各3点】

(1) φ の勾配を求めなさい。

$$\begin{aligned}\text{grad}\varphi = \nabla\varphi &= \left(\frac{\partial}{\partial x}\mathbf{i} + \frac{\partial}{\partial y}\mathbf{j} + \frac{\partial}{\partial z}\mathbf{k} \right) \varphi \\ &= \underline{(2xy - z)\mathbf{i} + \left(x^2 + \frac{1}{y}\right)\mathbf{j} - x\mathbf{k}}.\end{aligned}$$

(2) φ の勾配の発散を求めなさい。

$$\begin{aligned}\text{div grad}\varphi &= \nabla \cdot \text{grad}\varphi \\ &= \nabla \cdot \left\{ (2xy - z)\mathbf{i} + \left(x^2 + \frac{1}{y}\right)\mathbf{j} - x\mathbf{k} \right\} \\ &= \underline{-\frac{1}{y^2} + 2y}.\end{aligned}$$

【1点】(1) は正しくないが、(2) の計算は正しい。

(3) \mathbf{A} の回転を求めなさい。

$$\begin{aligned}\text{rot}\mathbf{A} &= \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ \frac{\partial}{\partial x} & \frac{\partial}{\partial y} & \frac{\partial}{\partial z} \\ A_x & A_y & A_z \end{vmatrix} \\ &= \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ \frac{\partial}{\partial x} & \frac{\partial}{\partial y} & \frac{\partial}{\partial z} \\ 2xy^2 - yz & x^2y + 1 & -xy \end{vmatrix} \\ &= \underline{-x\mathbf{i} + (-2xy + z)\mathbf{k}}.\end{aligned}$$

(4) \mathbf{A} の回転の発散を求めなさい。

任意のベクトル場に対し、その回転の発散は、各点に零ベクトル $\mathbf{0}$ を対応させるベクトル場である。

【1点】(3) は正しくないが、(4) の計算は正しい。

(5) ベクトル場 $\varphi\mathbf{A}$ の回転を求めなさい。ただし、 $\varphi\mathbf{A}$ は、点 $P(x, y, z)$ に対し、 $\mathbf{A}(x, y, z)$ の $\varphi(x, y, z)$ 倍を対応させるベクトル場である。

一般に、

$$\text{rot}(\varphi\mathbf{A}) = \text{grad}\varphi \times \mathbf{A} + \varphi \text{rot}\mathbf{A}$$

が成り立つ。(1) の結果から、 $\mathbf{A} = y \text{grad}\varphi$ と書けることがわかる。つまり、 \mathbf{A} と $\text{grad}\varphi$ は平行なので、

$$\text{grad}\varphi \times \mathbf{A} = \mathbf{0}$$

が成り立つ。よって、(3) の結果から

$$\begin{aligned}\text{rot}(\varphi\mathbf{A}) &= \varphi \text{rot}\mathbf{A} \\ &= (x^2y - xz + \log y)\{-x\mathbf{i} + (-2xy + z)\mathbf{k}\} \\ &= -x(x^2y - xz + \log y)\mathbf{i} \\ &\quad + (-2xy + z)(x^2y - xz + \log y)\mathbf{k}.\end{aligned}$$

となる。

【1点】公式 $\text{rot}(\varphi\mathbf{A}) = \text{grad}\varphi \times \mathbf{A} + \varphi \text{rot}\mathbf{A}$ を活用している。